

午後 I 試験

問 1

問 1 では、広域網にまたがる VLAN の運用を行っている社内ネットワークでの障害 2 件を題材に取り上げ、関連する技術項目について出題した。全体として正答率は低めであり、受験者のネットワークの基礎知識が不足していると思われる解答が多く見られた。

設問 1 は、ア、イ及びオの正答率が低かった。基本的な技術用語は、確実に把握しておいてほしい。

設問 2 (2) は、端末の送信元 MAC アドレスを学習しているポートを問う問題であったが、ブリッジテーブルの構造を理解していない解答が散見された。

設問 2 (3) は、L2SW₃ と AP 間がタグ VLAN で接続されていることと、字句に “ESS ID” を用いる指示があることに気付いていない受験者が多く、正答率は低かった。

設問 3 (2) の図示は、ループが発生する条件に着目しつつ、本文で説明されている接続を描けば解答できる問題であったが、SW のポートを接続する L2SW₂ の VLAN ID を間違えた解答が散見された。

問 2

問 2 では、自社のメールシステムから ASP の Web メールサービスへ移行するというテーマを取り上げ、基本的な技術知識とシステム移行時に必要になるシステム変更の内容について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 2 (1)、(3) は、表中の機能を選択し、その設定内容を解答する設問であったが、題意をよく理解しておらず、表中の機能を記述していない解答が多かった。

設問 2 (2) は、社内メールの SMTP トラフィックのルートに関する理解を問う簡単な設問であったが、POP 3 のトラフィックに着目した解答が多かった。

設問 3 (3) は、IMAP サーバとして ASP サーバを設定する誤った解答が多く、SSL ゲートウェイを経由した通信方法への理解が不足していた解答が多かった。

設問 3 (4) は、ファイアウォールを設定する上で必要になる、送信元 IP アドレスやプロトコル名の記述が不足している解答が多かった。また、メールソフトは IMAPS に対応していないことが明記されているにもかかわらず、プロトコル名に IMAPS を記述している解答が多かった。

問 3

問 3 では、e ラーニングシステムの増強を題材に、TCP/IP 通信の基本動作、データリンク層とネットワーク層の通信の関係を、負荷分散装置の利用を絡めて出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 (2) は、レイヤ 4 で稼働状況を監視する方式を問うたが、広く利用されている ping コマンドによるレイヤ 3 方式についての解答が多く、TCP の 3 ウェイハンドシェイクを記述した解答は非常に少なかった。各層で行われる稼働監視の目的と方式をよく理解してほしい。

設問 2 (1) c は、本文中に、負荷分散装置のソース NAT 機能は利用しないと記述したが、これを理解していない解答が多かった。機器の動作については本文中に記述されているので、記述内容をしっかりと読み、理解してほしい。

設問 2 (3) は、同一ネットワークの PC に転送するパケットを、負荷分散装置経由に変える方法を問うた。本文の理解が不十分だったためか、サブネットマスクに言及した解答が非常に少なかった。